

第57号

発行所  
 京都市中京区河原町三条  
 カトリック京都司教区  
 広報室 (Tel 211-3768)  
 編集責任者 村上透磨  
 編集部 教理センター  
 田中司教認可

# 京都教区時報

特集—パウロ六世の思い出—  
 今月の小教区の頁—奈良教会

## 教皇パウロ六世 逝去

新教皇にヨハネ・パウロ一世



御逝去10日前の教皇様

在位十五年という長期間、世界七億のカトリック信者の父として、又全世界の平和のために祈り、働き続けられた教皇パウロ六世は八月七日午前四時四十分、(日本時間)カステルガンドルフォにおいて心臓発作のため逝去された。次期教皇としては、八月二十六日アルビーノ・ルチアーニ枢機卿が選出され、九月三日、ヨハネ・パウロ一世として二十万人の人々の祝福を受け登位ミサが行われ正式に教皇位を継承された。奇しくもパウロ六世在世中最後の特別謁見を許された司教として田中司教は、その思い出を次の様に語られた。

今年は何年にもない酷暑の夏でしたが、七億の信仰共同体である私たちカトリック者にとっても忘れられない夏だったと思います。即ち私たちを預って下さっているパウロ六世の突然の召天とアルビーノ・ルチアーニ枢機卿が新教皇に選ばれてヨハネ・パウロ一世と名乗られた教皇交代の夏だったことであります。

特に私は日本人司教として、ご在世中のパウロ六世に特別謁見をゆるされた最後の司教になりました。ご死去十日前のお姿が目に見え、浮んでまいります。

私たちは、日本宗教特別使節団(神道、仏教、キリスト教)という名称で、諸宗教との対話推進の一つとしてローマに行き、故教皇が一行にやさしく丁寧にお話されたお言葉は日本国民に奇せる最後のお言葉になりました。その中で強調された点は信仰者の「心の浄化」でした。私たち、特に信仰者の一人ひとりの心と意思が清く正しいものでなければ、自由と正義と進歩・平和の問題は解決しないのだら



新・旧教皇様の  
珍しい写真

う、至高者なる神が、明るく、淨く、直  
き心を探求するみなさんを力づけて下さ  
るようにならう」とおっしゃいました。その時  
のお顔つき、お声の強弱を側で伺ってい  
ると故教皇の本心に深い信仰とこの選び  
の器の中に働き給う神のすばらしいみ業  
のようなものを深く感じさせられました。

新教皇ヨハネ・パウロ一世はその名の  
とおり、二人の前任者によって推進され  
て完了された第二バチカン公会議の精神を  
更に聖霊の導きに沿って押し進めて行か  
れるものだと思います。即ち内に対して  
は教会自身自身の改心と刷新を、外に対  
しては対話と和睦と協力を。云うまでも  
なく教会は神の救いのみ業、福音とその  
反抗の「しるし」として建てられている  
ので当然その中心である十字架のキリス  
トに従うことが求められますが、キリス  
トによらずして救いも完成もなく、ここ  
に私たち信仰の道に選ばれた者の課題が  
あるものと思います。

私たちの現代はあらゆる分野において  
困難さが待ちわびております。それ丈に  
小さな私たち一人ひとりでありますが、  
聖霊に導かれる新しい教皇と共にキリス  
トを求めつつ、召された信仰教育の徹底  
に自他ともに全力投球しなければならい  
と思います。中途半端からは何も生れて  
来ないと思います。

### パウロ六世と共に



パウロ六世の逝去は私達に深い悲しみ  
と感動を与えたが、当教区においても、  
去る八月十三日午後四時から河原町教会  
において、田中司教主式のもと古屋司教、  
教区司祭多数の共同司式によって追悼ミ  
サが行われた、席には葉上大僧正をはじめ  
各宗教界の代表の顔も見え、信者多数  
参加して教皇の遺徳をしのんだ、式中、  
田中司教は自分が司教の中で最後の謁見  
者となった事等を感慨深げに話された。  
教皇様について種々の思い出をお持ちの  
人もあろうが、故教皇に親しく接する機  
会のあった三師にその思い出の一こまを  
語っていただいた。

### カステルガンドルフオにて

村上透磨

私達が勉強していたプロバガンダの夏  
期別荘は、教皇様の夏期別荘と背中合わ  
せになっていました。別荘側に部屋を取  
った人は、教皇様が時々庭の中を散歩な  
さっているのを見かけたものです。でも

散歩中は窓を閉めておく様にとの厳しい  
お達しがあったのですが……。夏には一  
度教皇様の訪問と私達の教皇別荘への御  
招待がありました。或る夏の教皇別荘で  
私達は教皇様の前で、なら山、七つの子  
出船等を四部合唱で歌わせていた。さま  
した。私達同級生は六人おりましたが、  
中四人は哲学院時代からよく合唱をして  
おりまして、私がトップ、越知師がセカ  
ンド、大阪の和田、神林両師がペリトンと  
バスと云う事でローマへの船上でも時々  
ロマンチックな感情にひたりつ、歌った  
ものです。それがはからずも教皇様の前  
で歌う事となったのです。教皇様は事の  
外喜んで下さり、なら山を訳してみる様  
にと云われ、いやこれはちよつと訳しに  
くい(恋歌ですの)と返事したところ、  
「あー教皇は時には聞いてはいけない事  
もあるのですね」と仰言ったとか。

って下さる事、それは私達が考えると迷  
惑と思われる事も一つの大きなくつろぎ  
であったと聞く時、教皇様の大変な事を  
思います。殆んど誰も御存知ない、教皇  
様との思い出を持たずに喜びを感じる  
のは、感傷なのでしょうが。

### 教皇様の思い出

越知 健神父

教皇パウロ六世のご帰天の知らせを、  
深い悲しみと淋しさを感じつつ、受けと  
めた。大切な仲間を失った時に味うそれ  
である。手にとることもめつたになかっ  
たアルバムを、本棚の片隅から引つ張り  
出した。教皇は若い未熟な新司祭の上に  
手を置き、眠を閉じて祈っておられる。  
十二年前のこの時、教皇はまだ大変お元  
気で、きりりと引きしまっておられる。  
四十数ヶ国からの新司祭の一人一人が、  
世界の平和のために全力を尽くすよう  
と心をこめて訴えられていた。

ある日、西本願寺のS先生のお伴をし  
て教皇にお会いした。平和のために働い  
てくださって、ご苦労さまです。今後と  
もお互いがんばりましょう」と、この時  
も、心をこめて云っておられた。後日、  
日本からの少年少女の代表が訪問した。  
その時も「平和のために力を尽す人に  
なつてほしい」と子供達をじつと見つ  
めながらおっしゃった。帰途、子供達  
は、何度も何度も、教皇の窓をふりかえ  
りながら「がんばります」とはっきり云  
っていた。平和を口にする時、教皇はい  
つも一生懸命だった。それは、世界中の

その中には河原町の奥原氏夫妻も加わっ  
ていられたが、大謁見場の最前列で  
教皇様の共同謁見を受けました。最前列  
におりますと、教皇様はわざわざ壇をお  
りて来られ近くの人々と握手をして下さ  
います。その時の巡礼団の感激ぶりには忘  
れられません。日本の巡礼団は日本大使  
館に参与しておられるバリミッシュン会  
のアージュ師のおかげでいつもとても  
よい席をいたゞいておりました。師は教  
皇様にフランス語をお教えた事がある  
そうです。忙しい時間をさいて私達に会

不幸、苦しみを見るにつれ、ますます熱  
がこもるものとなった。多くの人々の苦  
痛は、教皇の心の中にも残るようにな  
っていったのであろう。

あるニュースによると、教皇は、病者  
の塗油を受けられた後、そこに居た人々  
に何事かを訴えながら、かすかに手を振  
っておられたとの事である。それは教  
皇がいつも願ひ、祈っておられた世界の  
平和のために、みんなが全力を尽してほ  
しい、と云うことではなかったかと思われ  
る。僕は自分勝手に教皇の弟子だと思つて  
いるのであるが、とにかくがんばろうと決意  
を新たにす。

### 教皇パウロ六世を偲びて

ヨゼフ・ナドウ神父

私は一九六五年一月一日聖ブラジリオ教  
殉教の祝日にローマに本部のある男子修  
道院の代表として選ばれ(総数一、〇〇〇  
名)ローソクを持って二人一組にて教皇  
の前に跪びお言葉を賜った時のことを  
思い浮べ在りし日のパウロ六世教皇を偲  
びたいと思います。私は二百番目位でし  
た。教皇には写真のフラッシュを浴びな  
がら私達一人一人にお言葉をかけておら  
れました。そのような教皇と視線が合っ  
たとき私は思わず身振りました。

目は充血してお疲れのご様子であったが  
微笑を湛えられ愛情溢れる父親の様なお  
声で私が終生忘れられぬお言葉を賜りま  
した。「日本で布教をしているのか」何  
と優しい労の言葉でしょうか又、何と力  
強い励ましの言葉でしょうか。

### 田中司教 香港会議へ

アジアの教会として14司教協議会と  
2司教区による「アジア司教協議会連  
盟(FABC)」は8月7-9日の3日間  
教会一致ならびに諸宗教委員会を香港  
で開いた。日本からは田中司教が出席  
し、その様子を次のように報告して来  
た。

会議が丁度パウロ六世のご死去と重  
なつたので出席出来ない司教が多かつ  
たのは残念。でも各国の現状報告で、  
この種の活動はトップレベルでは割合  
動き始めているが、他のレベル特に大  
衆レベルでは意識の点でもマダとい  
うのが共通印象であった。

その対策として①PR、②各種会合  
の積極的参加、③人材養成と情報交換  
などが話し合われたが、田中司教は今  
後益々その役割が重要となるFABC  
に肌で接して、その組織の内容、各国  
の異った事情、連帯協力の必要性を体  
験することが出来たのは最大の収穫で  
あった、と云っていた。

尚、FABC総会は11月26日よりカ  
ルカッタ(印度)で開かれ、3地区会  
議は東京で米春開催の予定。

### トウエス・サチュエルドスノ

#### 横田志郎師 司祭叙階

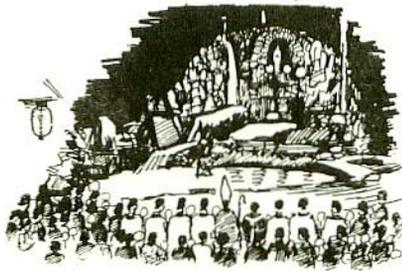
九月二十三日、西舞鶴教会において、  
ヨハネ横田志郎師の司祭叙階式が、田  
中司教司式のもとに多数の司祭、信徒  
の臨席のもと喜びのうちに挙行された。  
少数の司祭方で広い京都北部を司牧さ  
れてのレデンブートル会の司祭、信  
徒の方々はもとより教区民にとつても、

この上ない喜びである。新司祭の活躍を  
祈る次第である。

昭和五年三月八日、アンドレア横田徳  
治、アグネス久恵夫妻の第四子として、  
京都に生れる。同四月十三日河原町教会  
で受洗。昭和三十四年四月、レデンブ  
ートル会入会。

昭和四十九年八月十五日助祭叙階。  
昭和五十三年九月二十三日、司祭叙階。

### ルルド再現 西陣教会



1972年8月15日、R.T.横田は、ルルド聖母の出現の場(西陣)

長年心にあた、めてきたルルドの建設  
を是非実現しようと大島重良氏から提案  
されたのは今年正月の連絡協議会での席  
上。提案通り採択なつて着工されたのは  
四月下旬。提案者の大島氏を中心に、各  
信者の石の供出、婦人グループの食事の  
世話、直接工事にたづさわる青年グル  
ープと教会をあげての協力が実つて待望の  
ルルドは事実上八月十三日に完成。十五  
日聖母被昇天の祝日に田中司教を迎えて  
盛大に落成を祝った。  
五、六月の梅雨明けを待つて七月一ぱ  
い炎天下の工事が毎日継続けられたが、

川原で自分達が採集した石をふき出る汗  
ものかわと学生グループは大活躍。日  
曜以外の日にも、一人ででも工事が続け  
られるようにとお手のものの腕をふるつ  
て経過を追って画かれた大島氏のデザイ  
ンが教会内に掲示されるなどきまこま  
な世話や、ルルドにはつきものの池のた  
めの水道工事費の思わぬ寄贈者、はては  
山科教会で集められた石の無料輸送の申  
出を受ける等、多くの方々の善意と汗の  
結晶が西陣教会のルルドを築きあげた。

### 祝花、供花、式場装飾



JFTD加盟店

オリジナル フラワーデザイン

### 株式会社 桂花園

京都市西京区川島玉頭町4-1  
TEL (075)381-5389・391-0301

タイプ・活版 } 各種印刷  
オフセット }

## 今道印刷

〒602 京都市上京区天神筋一条下  
ル下堅町152  
電話(075)463-6024番

### 暑さに負けず！

#### 京都教区教会学校研修会

史上最高の暑さといわれた今年の夏、海へ、山へ、海外へと行楽の波は大きか



ったが、京都教区の教会学校の子ども達も各県毎にそれぞれ計画されたキャンプで心身を鍛えた。そして先生方も、8月10日〜12日まで洛星高等学校で研修会に参加した。講師は人形劇の上田次郎氏とマリア会の梶川宏師で、人形劇という技術的なものと教師の霊性という面からの講話で、その他歌唱指導、リクイエーション等があり二泊三日はあっという間に過ぎて行った。今年は十代二十代の参加者が多く、又お母さん達の参加も目立ち、京都教区の教会学校も信徒の手で、という考えが浸透してきたように思われる。又、参加者は奈良、三重、神戸、兵庫等から多くそれぞれの講話が素晴しかっただけに、地元京都の参加が少なかったことが惜しまれた。

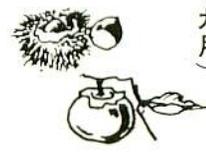
CLC全国集会(八月十七日〜二十日)は三年ぶりである。かつては毎年行なわれていたがしばらく中断していた。今年初めて京都のメンバーが全国に呼びかけ京都で開催された。今まで強力に指導してこられたリバス神父

### CLC全国集会を振り返って

が一時離日されたこともあって、どれだけ参加があるか不安であったが北海道、九州を始め全国から七十余名が参加。かなりの費用と時間をさいて集まっただけあって皆互いの生ささと信仰の分ち合いに渴いており、主催者の準備不足を補って余り

### 司教の足どり

(七月〜九月)



- 7月
- 16 ① 桑名聖信
- 17 邦人司祭月例会、代表者会
- 19 国際宗同同志会夏季研修会(三条)
- 20 ローマへ出発(日本宗教特別使節団・諸宗教会議・教皇謁見)
- 31 福音宣教聖者その他を訪問
- 8月
- 31 ローマより帰国
- 2 「太陽の園」関係者と面談(園部)
- 6 ① 河原町司教座ミサ
- 7 香港へ出発(FABC諸宗教担当者会議)
- 9月
- 31 カノッサ会管区、胡司教、ドミニコ会管区訪問
- 10 香港より帰国
- 11 メリノール管区長と面談
- 12 ① 故教皇パウロ六世追悼ミサ(三条)
- 13 故教皇パウロ六世追悼ミサ(東京)
- 14 西陣教会聖信
- 15 司祭評常任委(臨時)
- 17 ① CLC全国集会(本能寺会館)
- 17〜19 22 日本宗教青年会議(大山寂光院)
- 21 神学研修会(英語ND大学)に挨拶、教会学校教師会担当者と面談。
- 23 ゴダード師見舞(草津病院)
- 24 小さき姉妹ミサ
- 26 マリッジ・エンカウンター関係者と面談
- 27 ① 宮津、岩滝ミサ
- 28 司祭有志の集り(西舞鶴)
- 31 聖ライムンド・ノンナート

- ある集会を持つことができたこと信じている。集会のテーマは「CLCの原点を求めよう」であった。CLCの特徴、各自の生活におけるCLCの意義、社会あるいは教会におけるCLCの役割など再確認を
- 行なった。こうした中で一つのハイライトとして田中司教様の講話とグループ参加であった。司教様はこれからの教会における信徒の重大な役割を強調され、特に小教区内で、超小教区団体の持つ内力的
- を發揮することの必要性を説かれた。CLCも再発足以来十年がたち、各メンバーがそれぞれの生活の場を固めていく中で、派手さはないが地に足のついた信仰がはぐくまれていくのを感じさせられる。今回の集会がそれをさらに強化する契機となり、各メンバーが教会と社会へのより大きな奉仕に生きていけることを願ってやまない。
- 準備委員長 (文責・敷島)
- 3 ① 河原町司教座ミサ
- 4 京都市結婚互助会
- 4 司祭評議会
- 5 四日市海星高校ミサ
- 6 京都南部婦人連合会(三条)
- 7 ウォルケン師と面談
- 8 聖心ウルスラ会(雲)代表と面談
- 8 女子カルメル会代表と面談
- 8 召命促進委(三条)
- 10 ① 丹後大宮25周年ミサ
- 10 宇治カルメル会代表と面談
- 11〜14 研修会「社会と教会」(熱海)

# 信徒使徒職とは………? その(四)

前回までは、家庭と職場における毎日の生活を福音に従って生きる、即ち、生活による信仰のあかし」について述べてきました。

ところで、私達の使命である福音宣教のためには、どうしても「ことばによる信仰のあかし」が必要で、私達自身もことばによって福音を知ることができたのです。毎日を福音に従って生活するということは、生易しいことではありません。又、必ずしもそれが人々に受け入れられるとは限りません。「あの人はどうしてあのような生き方ができるのだろうか。」と感心する人もいるでしょうが、変り者と軽く見る人もいるでしょう。そのとき、あなたの一言は、その人達に、人間にとって最も大切なことを思い出させるに違いありません。

「ことばによる信仰のあかし」を、神学の知識もなければ、上手に話すこともできない自分にできる訳がないと尻ごみすることはありません。

君が行く海辺の宿に霧立たば  
吾が立ち嘆く息と知りませ  
万葉集巻十五にあるこの歌は、新羅の国へ使として遣わされた夫を思い、家待つ妻の歌ったものです。

当時、難波を出た船は、港々に泊りながら瀬戸内海を一月程か、つて九州に着いたのです。そして、九州から先は正に命がけでした。その船路に行く夫を思い、自分の嘆きをありふれた霧に託し

## 信徒使徒職

たこの歌は、平凡なようでありながら、夫への思い、作者の嘆きが、千三百年の歳月を超えて読む者の心を打ちます。何故でしょうか。それは、上手な歌を作ろうなどと思わず、自分自身のことばで、自分の心を歌ったからではないでしょうか。

「ことばによる信仰のあかし」も、聖人のことばや、神学の知識を話す必要も雄弁である必要もありません。自分自身のことばで、自分の信仰を素直に話すことが一番大切なことです。家庭や職場で毎日福音に従って生活しているならば、生活が福音そのものです。雄弁である必要も多くを語る必要もないでしょう。

異邦人の使徒聖パウロも「私はあなたたちのところに行つて神の証明を告げたが、それは巧みな言葉と知恵によつてではなかった」(コリント一、二の一)といっています。又「むしろ私は弱々しく、恐れ震えながら、あなたたちの前に現われた。私の言葉と宣教は人を屈服させる知恵の雄弁ではなく、霊と力の表われであった」(コリント一、二の三〜四)といっているように、聖パウロも常に自信に満ちていた訳ではありません。私達と少しも変わるところはなかったのです。そして、宣教に雄弁である必要はないことをも示しているのです。

信徒使徒職についての体験ご意見、質問のある方はご遠慮なく編集部へお寄せ下さい。

# 小学校における同和問題について

井上新二

小学校三、四年生ですでに多くの子どもが「同和」問題について何らかの形で知っており、且つ、不十分な形ではかその問題を理解していない事実を直視するとき、「寝た子を起さず」や「自然のなりゆき論」は、非現実的の考えであり、未来を担う子ども達の将来を考えると、計画的、組織的、しかも、なるべく早期に「同和」問題指導を行ないその問題に對する正しい理解を育てる事が、より現実的であり重要なことではないか。

また、福音的観点から「同和」問題指導をみつめた場合、ヨハネ第一の手紙三章、四章にある「私達が死から命に移つたのは兄弟を愛するからであつて、愛さない者は、死の中にどどまっている。」「子らよ、口先だけでなく、行ないと真実をもって愛そう」という聖書の言葉は大きな意味をもつてくる。現実社会で生じる不平等、不合理等の矛盾を矛盾として受けとめ、「言葉と口先でなく行ないと真実をもって」矛盾の中で苦しむ人々を「愛す」ことができる子どもを育てることは、福音を伝える者にとつて重大であり、また、「同和」問題について正しい認識を育てることは、福音宣教を行なうものにとつて不可欠のことではないでしょうか。

部落差別により、文字を奪われた人々、就職の機会均等を奪われた人々、今なお劣悪な環境の中で生活する人々等に對し

## 同和問題

て、具体的に、どのように働きかける事がキリストの弟子として歩むことになるのかを、子ども達に指し示すことがより福音宣教の中味を豊かなものにするのではないのでしょうか。

最後に、社会科学習における「同和」問題指導に對する子ども達の感想を紹介いたします。

- ・歴史を学んで「差別された人々」は自分が差別されてたくて差別されたのではないから、現在このようなのことがあるのは間違っているし、また「同和」地区の人々にとつては間違っているだけではすまされなと思います。現在まだ残っている原因と、これからどうすべきかを、みんなで考えるべきだと思います。
- ・「水神社宣言」に、「人間は哀れむべきものでなく尊敬すべきものである。自分達が一番人間の尊さを知っている。」とあるがそのとおりと思うし、みんながそのことをわかるべきだと思う。
- ・歴史を学んで心に残つたのは、差別の事です。人々はなぜ「同和」地区の人々を助けられないのか不思議です。彼らの不当な不幸を解決する事が、自分達の不当な不幸も解決できることにどうして気がつかなかったのでしょうか。

部落差別により、文字を奪われた人々、就職の機会均等を奪われた人々、今なお劣悪な環境の中で生活する人々等に對し

毎日小教区で働いている私がこの四・五年間にいろいろな人、出来事、運動に接して影響を受けたことが多いが特に影響の大きかった事が五つぐらいある。その事によって私は神に出会った。自分の生活が変わったときつと言えらると思う。

★大きな恵みは神父三、四人で生活することです。いつでも司祭館で話し相手がある。★マリージ・エンカウターは結婚、家庭のすばらしさの再発見をする方法ですが私にはどんな黙想会よりも印象的だった。本当の自分を発見して、自分と教会、共同体とのかかわりのすばらしさをまったく新しい目で見ている。★「教会が福音宣教のために存在している」ということはレジオ・マリエで習ったし、



### 私が神に出会う時

又現在レジオで実行されているからこの「錨」とかかわりがあるかぎり教会のこの大切な面はいつも目の前にある。★聖霊祈りの会。初めは無関心で参加しなかったが主任の立場から無視出来なくて義務的に参加。今は、そこで自分の祈りが支えられ、養われているように感じている。★最近、神のみことばを知りたい方が多いことはたしかに霊の働きだと思ふこの方々といっしょに信仰と祈りの雰囲気の中でみことばに接して、聖書が私の生活の中心となった。

奈良教会 P・オヘル神父

日本の心ふる里奈良、東大寺大仏を代表とする仏教伝来の地、こゝに明治38年、民家の離れに僅かな信者が集まってキリストの灯をともして以来、ピリオン神父、メリルシュ神父を経て、昭和7年、前教会を建立。昭和25年、奈良県下はマリスタ会オーストラリア管区に委ねられ、43年現教会へ新築移転し、邦人司祭の叙階の喜びも経て今秋、献堂10周年を迎える。奈良の地を説明御案内をする必要もないと思うが、近鉄奈良駅の地上へ出られたら、北側の空を仰いでいただきたい、登大路町の高台に地上26メートルの十字架が仰げる筈である。

東向商店街を東に、ミサに遅れそうな時はシンドい敷石の坂の上に、中庭をはさんで右に聖堂、納骨堂、左に司祭館、集会室の数部屋がある。つきあたって奥が幼稚園、カテキスタ館と広がる。

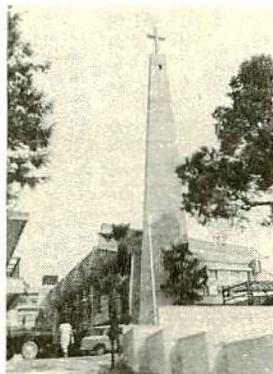
信者数70人、司祭4人、カテキスタ2人、幼稚園は善きサマリア人会修道院に委任され、教会もシスター方の助力をいただいでしあわせである。ボーイ・ガールスカウト3団、大きな行事には協力を得ている。ルーニイ神父が始められた、「おもちゃ、ライブラリー」は心障児のおもちゃによる心身の訓練で週三回、専任の先生とボランティアの人達で開かれており、今春、葛教会に宿泊訓練所が建設された。

聖書研究はベテル聖書研究会が二期終了して、今春から聖書100週間が開かれ、40人受講している。青少年の聖書拝読会もいくつもあがるが、学校のクラブ活動と

の時間的な悩みがある、日曜学校の子供は90人、うち70世帯は一家信者の家庭である。シスターと母親が指導している。

信者活動も多様である。レジオ・オズブレシディウム、隔年のバザール、結婚互助会マリツジ・エンカウター、聖霊祈りの会、カトリックフレンズ(旧土曜学校)外部へはマリア会の整肢園奉仕、青年会の刑務所慰問、エキユメニズムとして新教と合同の盲人手引ボランティア、年末

## 小教区の頁



### 奈良教会

に仏教大安寺信徒との共同街頭募金、この数年は「独り暮らしと寝たきり老人の為に」の呼びかけで、両者と幼稚園の父母、スカウトも自主参加、クリスマス前の行事として市民に定着しつつあつてバザールともに市民との交流の時である。8月の献血も街の人達に呼びかけている。今年の納涼大会は、青年会が中心になつて大いに食べ、うたい、夏の宵を楽しんだが、活動員が少なく部長は大忙しが現

状である。教会維持費の面で長年に渡つて英語教室を開いて支えて下さる先生方も大きな力である。

◎地区集会 現在30世帯を22地区に分けて月一回の集会を各家庭で開いている地区委員は、当月の「分かち合い」のテーマを事前に研修し、神父、シスターの助言をいただき集会を進めるが、この場合は教会側からの伝達に終らず、信者一人ひとりの意見が気軽に発言できる場ともなっている。その他、生活情報の交換、地域布教、近隣信者の相互扶助。教会行事への参加と協力など、教会活動の基となっている。しかし、どの地区もこのように活発な集会が開かれているわけでもなく、地区委員が集会場所の設定や、出席者への呼びかけなどに苦労している地区も多く悩みはつきない。

しかし、今年の教会の目標テーマの「布教」は、各地区が、足がかりとなり、地味な広がりを見せている。「心のともしび」一人五枚配布(一戸毎に折って届ける)、がだんだん数を増している。地区が出来て十数年になるが、三歩進んで二歩下がる現状であっても、一歩一歩のあゆみを神に捧げたいと願っている。

昨年購入したマイクロバスは教会の行動範囲を広げ大活躍である。信者のお年寄りを集めたり、おもちゃライブラリーの宿泊訓練、スカウトのキャンプ、盲人ボランティアのキャンプなどの送迎のほか、今春は復活祭後、九州巡礼に五泊六日の旅行を取行した功労者である。

### 故パウロ六世を偲んで

#### 牧者の声をききながら

聖年も終りに近づいた布教の主日に、布教聖者は各国のカテキスタを召集した。聖ペトロ広場の中央に祭壇が設けられ、教皇ミサが行われた。純白の祭服の教皇様の真近にカテキスタ達の席があり、聖書朗読、奉献、共同祈願等々、日頃自国の小教区でしているように待者の役務に奉仕した。韓国の一カテキスタは感激のあまり教皇様の足もとにひざまづいた。そのとき教皇様は腰をかがめて彼の手をとって立たせて下さしめた。広場をうろづめた三十万人の群衆から拍手が湧き、祭壇の前に飛出て踊りだすアフリカのカテキスタ達もいた。教皇様は原稿を祭壇に置かれたまま両手を広げながらカテキスタ達の席近く歩みよられ

「私はあなた達に期待している。あなた達は布教の最前線の兵士である、あなた達は教会の力であり、世界を変える力である」と

このお声は今も私の心に生きている。信者の少ない布教の最前線で孤独と無力感におそれないように、弱い私は、教皇様のお声を操返し「聞きながら」福音宣教(Ⅵの60)を詩編のように唱えて祈ります。

(京都教区カテキスタ会員 川口)

#### パパ様に触れて

教皇様はつかくと歩みよられると何

のためらいもなく、ご自分の両の手で優しく私の両手をつ、むように握りしめて下さいました。リュウマチの為、指が曲り誰でも出した手も引こめたくなくなるようなみにくい私の手を。

そして、少し首をかしげ、上から車椅子の私の顔をのぞきこむような恰好で話しかけて下さいました。柔くあた、かい教皇様のお手に自分の両手をゆだね、私は言葉もなくただ教皇様を仰ぎ見るばかり

### 読者の真 夕マスコ途上

#### 投稿規程

この欄では、読者の皆さんの自由な御意見を求めています。教会での出来事、生活の中で印象に残ったことなども結構です。また「時報文芸」では、和歌、俳句、詩を紹介いたします。ふるってご投稿ください。

▽六百字以内 ▽住所 氏名 所属 教会、年令、職業を明記 ▽匿名希望の方はその旨を書いて下さい。

▽原稿は返却しません。

でした。教皇様の優しいお目は「遠い所をよくきました」

と言って下さってるようぞ思わず私は、「パパ様！」

と心に叫びました。教皇様の白いお肌とお召物がライトに映えて清々しくおかし難い威厳と気品があたりをはらっていましたが、いかめしい教皇様ではなく、正しくパパ様でした。

教皇様のお言葉にシスターエリスが答えて下さいましたが、教皇様は何度もうなづき、軽く手を握りしめ、最後に私の

手にロザリオを握らせもう一度じつと私をごらんになりました。その一瞬でした

パパ様のすき透るような美しいブルーの瞳の奥に、厳しい愛いとも似た陰を見たのは、私はハッとしました。そして、教皇様の十字架の重さを垣間見たような気がして、思わず教皇様の為にも、もつとく、お祈りしようとする心にちかいました。それから四年。

再び謁見場に目みえた教皇様は、誰の目にも明らかに病気でいらつしやいました。それをおして、世界中から集った巡礼者の為にとめて下さったお姿は、神の慈しみそのものでした。

両側から支えられるようにして輿を下り壇に上られた足の運びのおぼつかなさも、リュウマチの痛みの為と聞くに及んで私の胸は痛みました。同じ病いの痛みは私をも三十八年間さいなんできたのですから、

教皇様は御ミサに与っておられ、心臓発作でそのま、帰天されたそうですが、教皇様はキリスト様の歩まれた苦難と栄光の道をご生涯の最後の一瞬まで共に歩まれ天に帰られたのでしよう。

パパ様長い間ご苦勞様でございましたどうぞを安らかに眠り下さいませ。

(高野教会 伊達よしえ)

人事移動

唐崎教会のゴダード師が心不全のため草津病院に入院しました。お祈り下さい。高唐崎教会主任は松阪教会よりC・シエレーリング師となります。

### 教へたよ

#### 西陣もやるな!

昔、私達の教会にはルルドのマリア様が有りました。いつごろなくなったのかはつきりわからないのですが、その時は幼な心に何か悲しさを感じたものです。近ごろは気にもしなくなりましたが、今年の春、壮年部の方がルルドの奇跡を見たという事で俄然ルルド熱が高まって来ました。その時、西陣にもルルドのマリア様を作りたいという意見が出て、それがあつという間に着工される事になりました。石の収集、費用、人手等、問題は多かったです、3ヶ月余りも思ったより早く素晴らしい完成。西陣もやるな、とうれしくなりました。皆さんぜひ一度御覧になって下さい。(青年部H・M)

#### 岩滝教会

去る8月27日①岩滝での夜7時半のミサを田中司教様と主任司祭ジェームス神父とで献げて下さいました。聖体拝領者70名程、幼児を入れて90名余り、小さい教会なので満員、ミサに来た人達は司教様にお会いでき喜んでいました。岩滝の日曜ミサは、午後五時ですが、夏の暑さが少し柔らぐまで、夜七時半からにしています。

※今月は紙面の都合で古屋司教の「芽ばえ」を休ませていただきます。司教様の思い出の原稿を募集しています。

11月末日締切

# お知らせ

○第四回カトリック正義と平和協議会  
 国会議は十月八・九・十日に「差別・人権・福音」をテーマにカトリック会館で開催されます。二日目と三日目はオープンにします。御参加下さい。なお、詳細は京都正平協事務局まで

## ○京都教区修道女連盟集会

日時 10月1日・午前10時～午後5時  
 場所 スヴェール愛徳修道会藤の森本部修道院  
 テーマ「祈り」

講師 奥村一郎師(カルメル会)

## ○滋賀県教会学校教師研修会

日時 10月22日①午後1時～4時  
 場所 草津カトリック教会  
 テーマ「子どもの宗教教育」

講師 カシミロ・フェルナンデス師  
 教理センタースタッフ

## ○講演会

日時 10月29日①午後1時30～4時30分  
 場所 京都カトリック会館6階  
 テーマ「日本の教会のビジョン」

講師 佐々木博師(日本宣教司牧センター所長)

## 京都二十六聖人

### ・遺跡・遺品発掘保存会(仮称)の発足

こゝ京都は千年の都、世界の京都である。この京都に年々国内外を問わず訪れる旅行者は数を断たない。カトリック関

係の遺跡も二十六聖人をはじめ多くある。この様な遺跡を求めての巡礼者も少なくない。しかしそのための案内書の適当なものはない。このところ皆無である。そこに着眼した田中司教の要望に、京都産業大学客員教授、二十六聖人についての研究の權威者、ルドビコ茨木神父を中軸に迎え京都府下全域を対象にして、二十六聖人を研究し、遺跡や遺品を求め、発掘し、保存し、出来れば京都における多くのキリスト者の歩みを明らかにしてゆきたいと願い、考え、行動する人達の会が発足しました。各小教区から一人でも多くの参加者がありますよう望んでいます。二十六聖人や、キリスト者の歩みについて興味のある方、又、一緒に研究したいと思う方は、官製ハガキに、所属教会名、氏名、住所、年令、職業、電話番号を記入の上、左記へ御連絡下さい。

604 京都市中京区河原町三条上ル  
 河原町カトリック教会内  
 二十六聖人遺跡遺品発掘保存会

## 訂正とお詫び

○時報6月号の京都司教区現勢調査報告の中で聖母カテキ斯塔会の人数が抜けていました。聖母カテキ斯塔会の会員は現在京都教区に20名、主に小教区のカテキスタとして活躍しています。増々活躍されるよう祈り訂正とお詫び申し上げます。○8月号の三頁目古屋司教関係記事の中で次の様に訂正しお詫びいたします。

格氏↓、椋氏、瀬畑氏↓稲畑氏

## 教区短信



▽九月十七日①  
 奈良教会新聖堂十周年記念式

▽九月二十一日①  
 希望の家保育園別館祝別式

▽九月二十三日①  
 横田志郎師司祭叙階式

▽十月一日①  
 於・西舞鶴教会

▽十月一日①  
 京都信徒連合会(仮称)

▽十月八日① 午前九時半  
 山科教会二十五周年記念式

▽十月八日①～十日①  
 日本カトリック正義と平和協議会全国会議 於・河原町カトリック会館

▽十月十四日①～十五日①  
 召命を考える錬成会 於・男子カルメル会黙想の家 指導者、静一志師

▽十月二十二日①  
 堅信式 於・北白川教会

▽十月二十九日① 午後二時  
 園部教会二十五周年記念式

▽十一月六日①  
 司祭評議会定例総会

▽十一月十日①  
 教区内男女管区長会議

於・カロンデレットの聖ヨゼフ修道院

▽十一月十二日①  
 堅信式 於・伏見教会



時報が対話  
 の手段なら  
 者も読む者  
 は「互に」  
 も、投稿者  
 心を開けあ  
 も編集者も。

◆陽の光をたらふく食べた柿、栗、梨、葡萄。秋の味覚は暑い夏が残してくれた贈り物。こんな素適なプレゼントがあること、あの猛暑のときには気付きませんでした。気付かないこと沢山あります。私たちの生活の中にも。(亜)

◆はじめに笑みありき。は朝日新聞記者の新しいパパ様の印象。教会と世界のためにすべてをさげると宣言された新教皇に限りない神の祝福がありますように。一昨年新しい司教様のおしらせがあったのもこの頃でした。早いものですね(Y)

◆この夏は日本列島を三千キロ以上も駆け巡りました。どこへ行っても「暑いですわね」の御挨拶でした。でも、どこへ行ってもよくクーラーが効いていて風邪の引き易い私にはむしろとても寒いふしぎな夏でした。(北)

◆心の暖かさが手にあふれるのだとしたらあの方の手は小さなあなた、かい手でした。心の深みが目に溢れるのだとしたらあの方の目はとてもすんでいた様に思えます。ふはじき教皇陛下の御冥福を。MT

◆続けるという事は大変なことである。しかし何事においても尊いことだ。右も左もわからない編集者に印刷屋さんがいられる助言をして下さる。小教区の広報部の方にもはげまされた。皆に助けられて、皆に待たれる時報にしたものだ。